

## 昭和五年元旦

早朝より雪を見る。久し振りの雪に舎内も活気立つ。残留舎生九名にて侘しい正月を迎ふ。畑君数日来、風邪にて引き籠りしも一緒に雑煮を祝ふ。十時半より四方拝賀式に学校へ行く。總長の声をきき、天皇、皇后の萬歳を三唱す。昭和の御吉いよ 栄ゆ、慶賀にたへず。

帰省せられし諸君も、旅行中の諸君も各々楽しい正月を迎へられたことであろう。

終日此の日雪降る。

一月三日 当時の舎生、坪田進太郎氏がスキー遭難のため銭函村十萬坪に於て死去されているので、事件への対応と葬儀の準備、実行のため多忙さを極めたものと想像される。このため一月二日～七日までの日誌の記載はない。

一月八日 本日より第三学期始る。コンデを聞きに学校に行く。連日の仕事により疲労し眠し。故坪田君の葬儀も完了し、一先づ片附けり。夕食後、坪田小袁しより別れの挨拶あり。唯皆の真心よりの努力に感謝せらる。此の後、会葬御礼の礼状を書く。

夜九時過ぎ、坪田氏の退札を駅まで見送る。

遺骨を捧げ持たる御遺族の姿には再び涙を流せり。多数の見送りあり、寺岡君は皆にすがりて見送る。本間君代表して小樽まで見送りに行かれる。

十日 朝八時の急行で大岩君帰舎される。

夜十時の急行で広瀬君帰舎される。

十一日 本日天気晴朗、安田、大島両君朝よりジルバーへ、河原、桜林両君午後よりジルバーへスキーに行かれる。今年の一年のスキー熱は驚くべきものである。午後、大抵の人外出せられ、僕と樋口君のみ籠城す。

斯く暖き、気持ち良き日を家に送るは全く愚なり。此の日、松原湖に於ける学生氷上競技において北大最後の決勝戦に慶應と戦い、5 - 3にて破らる。眞に残念なり。

十二日 開放されたる最初の日曜日、加ふるに天気良し。此の日札幌神社外苑記念シャンツェ開き行はる。銀世界ほのぼの明け放れたる荒井山は朝より市民の波となった。

安田、桜林、大島の三君は朝より手稲山にスキー登山を決行され夕刻無事帰舎せらる。

石君と僕、円山、三角、ジルバーを荒し、へと へにへばる。帰途、大塚、樋口、金森、木村の四君に会い一時間余もジルバーに遊ぶ、舎生殆んどスキーに出たり。

ジャンプ競技の成績は一等早大出野君(三十二米、三十二米五〇) 北大関君(三十米)は三等なりき。夜七時より三日以来の慰労会催される。皆、菓子に果実に腹一杯食して満足す。

十四日 平川君帰舎される。足未だ完全に治らず跛引き 。それでも仲々元気なり。

十五日 相変わらずスキーは盛んなり。安田、桜林、大島、吉川の一年諸君を始め、広瀬君等円山或は三角に出掛ける。

十六日 桜林、安田、大島三君又スキーに出掛ける。夜に入りて雪となる。その勢い猛烈

なり。皆明朝を樂み喜ぶ。夜九時頃に至り少壯スキーヤーは俄に青年寄宿舍スキー場にて活躍、深更に至るも知らぬ熱心さなり。

十八日 十六、十七両日の雪二尺に達す。鉄道にはラッセルが心地好い響を立てゝ走っている。到る所純白な朝の景色の荘嚴さ、太陽の光に輝く銀の海、加ふるに本日は全国高等専門学校インターカレッジスキー大会第一日に当る。午後よりスキーを背にし紀念シャンツェ附近に出掛ける人々多し。

インターカレッジスキー大会の結果左の如し。

(十九日北海タイムス)略。

斯くして北大、早大十五点、明大十四点となり第一日終る。明日はジャンプ、三十二軒リレーが行はれる。

十九日 インターカレッジ第二日も天候に恵まれ、加ふるに日曜日、円山、荒井三角一体は黒山のような人出なり。

スキー大会には北大惜敗、早大に勝ちを譲る。眞に遺憾なり。されど選手諸君の努力全く感謝にたへず。我等明年を大いに期待す。成績左の如し。(略)

第一、第二両目の得点總計は、

早大四十三点、北大三十五点、明大二十四点

法大十二点、小樽三点、日大二点、専修零

斯くして夕七時より優勝盃は早大に、豊平館にて授けられた。北大、奥井選手はジャンプに於て鉄相カップを受けたり。

二十日 夕六時前、入院中の寺岡君、足も手も癒えられて帰舎さる。長期の入院で多小やつれて見受けらるゝも、元気よく話されていたり。

二十二日 本日決算を行ふ。思いしよりも安く上れり。夜に入りて雪ちら 降り初む。

最近風邪にかゝる者日に多し。樋口、大島、大岩の諸君等、普段の元気もなく弱り切り居りしと、皆漸く元気を取りもどせり。

二十三日 本日夜、しるこの馳走あり。胃酸を要せし者三名、最高レコード清水君の七杯。

二十六日 朝より雪、日曜日の安らかな気持で窓を開き、一面雪の降るを見る我等の壮快さ、皆朝よりスキーに出づ、河原君は二十五日夕より空沼へ出掛けたり。本日は広瀬君の三段山、安田君のワウス山、ハルカ山方面、大島君の盤ノ沢方面のアラインゲーエン、一年諸君の三角山スキー場、下は相当吹雪きしも、山頂は平穩なりしとのこと、各自愉快に充分スキーを味はれたり。

河原君は電報にて帰り遅くなる由、定めてヒュッテにて自由に遊んでいるならん。

二十八日 来月一日故坪田君追悼月次会委員本日発表さる。左の諸君なり。

畑、廣瀬、樋口、本間の諸君。

三十日 本日、安田君誕生日にて一室に皆集いたり。一同集いしこと珍しく談話に花を咲かせり。

二月一日 故坪田信太郎君追悼月次会行はる。

先づ委員の料理せる晚餐より始る。野菜、ハム、魚のサンドイッチに皆舌づつみを打つ。七時半過ぎより月次会は本間君の開会の辞と共に開かる。本日出席された方には、敬愛する宮部舎長を始め先輩中島、時田、犬飼の諸先生なり。次いで平川副舎長の挨拶あり、坪田君をしのぶの言、皆感慨無量なり。次いで土井君の遭難報告あり。ありのまゝ語られたる土井君の話に我等又涙を流せり。左にその概要を記せん。

午前七時五十分札幌発四君銭函へ向はれた。用意萬事とゞのへ始めはスキーを手に持ち、今度坪田君を運び入れに製氷所まで来り、握り飯を一個づゝ食し、片方のみアザラシを用ひて登山についた。途中坪田君は元気漲らつたりしも、常に皆より歩行遅かりしと。銭函峠へは午後一時頃到着し、晝食をなし再び登る。途中或は坂に苦しみ、道を分け、八條君は、ひとまず先きにヒュッテに行き、用意して引き返すことゝなり、残りの三君で登っていた。途中坪田君は小川に落ち、寺岡君のツボンをつけ再び登った。然して薄明になるに及び、寺岡君はスプールの方向見失い、遂に火をたき徹夜の準備をなせり。皆始め歌をうたい元気ありしも次第に黙々と火を囲みたり。

後一時間もして迎えがなければ引返えさんと土井君は考へられたり。その時、八條君燈を持ちて迎へに来られ、やっとヒュッテまで辿りつけり。翌朝は余り滑らず、主にヒュッテにて遊び、高山の正月を迎へられた。

常に坪田君は元気でユーモアに富んでいた。二日目は八時半に出発、どん 下られた。晝食時間になり土井君、八條君は地図により進路の間違いを発見せられた。が他の二君には語らず、ただ銭函川の流れに沿い下られた。しかし坪田君は刻々疲労を増し、一丁のスロープを下るに一時間を要す等、雪まみれになり疲れ始めた。以後坪田君は弱る一方、十時に至り全く一步毎に転ばれ、十二時を過ぎては讒言を云い、四時に至り絶命された。その間土井、寺岡、八条君はあらゆる手段を講じ努められたが、不幸遂に四時になくなられた。

我等は此の土井君の話により大いに坪田君の遺しし教訓を感じた。

次いで寺岡君の挨拶あり、土井、寺岡両君共、此れを心の一転期として、坪田君の靈に対し恥しからぬ、又遺訓を忘却せぬよう大いに努力さるゝ決心と固く心に誓われたり。次いで広瀬、大塚、本間君の坪田君についてのお話あり。皆坪田君の熱心、忠実、勤勉なりし当時を思ひ感慨無量なり。坪田君はなほ我等の間にいる如く、常にほがらかな笑声の聞ゆるを感ず等、坪田君の靈は常に我等の寄宿舍にあり、我等を見守ってくれるであらう。

犬飼、時田、中島諸先輩の御話、すべて坪田君を追慕し、我等の覚悟を御さとしになった。宮部先生の御訓話に対し、舎生皆、坪田君の心にそむかぬよう努力すべきを心に誓いたり。

かくて広瀬君の閉会の辞で会は終り、お茶が出された。

舎長宮部先生には、今般帝国学士院会員になられ、此の上もなき名誉、又何時か、此

の御慶事についての御話を承ることを希望す。

二月二日 天候よく晴天なり。気温暖く春の感あり。安田君奥手稲に登山せらる。其他大島、石、桜林、畑君等盤ノ沢方面、清水、金森両君は砥石山に向はる。何れの諸君も元気で帰舎さる。

二月三日 本日節分なり。豆撒きする筈なれど左の掲示あり。

「本日節分にて豆撒きなれど廃して、八時半より、しるこの饗応あり、存分に腹に豆を撒かるべし、何事も万事節約の旨の中なりし」と。

二月五日 本日例年の通り舎内ピンポン大会行はる。メンバー、戦績左の如し。(略)

紅白試合は白軍廣瀬君の猛闘にもかゝらず敗北す。平川君の落ち付きと老練には舎生何人も頭を上げるものなし。優勝戦は安田君大いに努力されたが、畑君に破らる。廣瀬君 - 大塚君、大塚君 - 畑君、桜林君 - 平川君等、中々見事なゲームを見せてくれたり。

二月六日 寄宿舍恒例の手稲山登山行はる。

参加者は割合に少く、畑君、平川君、廣瀬君、安田君、大島君、桜林君、石君、金森君、吉川君の九名なりき。用意萬事備へ、七時三十五分札幌発にて軽川に向ふ。軽川発八時半、充分ゆっくり元気に登った。始めての人も多く、ザイルを用ひし者も半数近くありしも二時間にてヒュッテに到着す。

途中、連山の美を賞し、石狩平原の雄大さを眺め、石狩湾の壮麗さを眺めつゝ登った。右には遠く奥手稲方面、ハルカ山、ワウス山等を望み。前方に手稲の麗峰を見つゝ愉快地、学校も何も忘れ、ひたすら登った。

途中一回休憩し林檎をかざった。ヒュッテは実に有難いものである。北大の休日なりし為、多数の登山者あり。ヒュッテも可成り一杯であった。皆熱い豚汁をすゝり握り飯を食った。十二時半此处を出発、道を大曲コースにとり、廣瀬君を先頭に元気よく滑った。途中、吉川君は止むを得ず木にぶつかり、殆んど気絶せんほどであった。何しろ猛烈なスピードにて滑り下りし故なり。又石君は第一の木株にて肩を打ち、大いに意気沮喪せるも頑張りて遂に軽川に着す。軽川スロープにて一時間程遊び、三時三十五分の汽車にて帰札する。眞に楽しき一日なりき。

二月七日 本日終日粉雪降る。手稲、藻岩かすかに浮び、北海道へ来し喜びを感じず。

皆雪が降れば元気にして喜べり。

二月八日 廣瀬、安田、桜林、大島の四君午後より藻岩登山し、南方盤ノ沢方面に抜けらる。元気で痛快なりしと各々語る。

二月九日 日曜なり。早朝より広瀬、桜林、安田の三君三角山に行かる。安田、桜林君のスキー熱は盛んなるものなり。外各々スキーに行かる。

二月十一日 紀元節なり。春に似る暖かさ。

軒のツララも解けたり。広瀬、安田、大島、桜林の四君ハルカ山に行かる。

本寄宿舍先輩宮脇堅太郎君、青森に於て脳膜炎にて死去せらる。

夜しるこの饗応あり。先日来、清水君は唯一人スケートにて活躍す。

二月十二日 朝から猛烈に吹雪く。札幌にては、かく吹雪くは今冬初めてなり。雪と風の大闘争、自然の猛威、我等ただ見守るのみ、今日は寄宿舍のスロープにも小供見えず、街も寂れて終日淋し。

二月十四日 本日は予科送別会行わる。道場に一同集合。送別の辞、当時あり。同大学内に学ぶ、何ぞ悲しきことあらんや。午後は余興に興じ一時半開散す。寄宿舍にて本年予科卒業者は本間、畑、大塚、河原の四君なり。安田君二、三日前より風邪にて弱らる。

二月十五日 カーニバルに当り街は賑へり。

夜舎に止る者、二、三名のみ、皆街に出でたり。

二月十八日 二十二日行はる卒業生送別月次会委員発表さる。川原、木村、石、金森の諸君なり。

二月二十日 文芸部原稿とゞのい、坪田君追悼第三号「櫓の音」刊行する。

二月二十二日 卒業生送別を兼ね月次会行はる。今年の卒業生は平川好文君唯一名なり。

先輩は亀井氏一名来らる。

晚餐は肉なべなり。七時半より月次会行はる。先づ川原君の開会の辞あり。土井君より、青年寄宿舍メダルの贈呈あり、大塚君より写生一同の贈物あり。あつかましい平川さんも顔を赤らめつゞお礼を言はる。

次いで副舎長改選、土井君当選、挨拶あり。

それより舎生一同の話あり。本日は全部前に出て話せり。平川さん唯一人にて皆の攻撃にかなわず、しきりにもじと体を動かし、赤くなり、障子戸を開いて風を入れていられる。皆の話はすべて次のことに帰す。平川さんは実に良い人でした。実行家で實際家でありました。又我々より見れば大人、父の如き感がした。親切な人、交際家なること等々話はずきなかつた。次に平川さんは演壇に立たれ、我々後輩の進むべき方向等色々話され、又思い出話等をなされた。あの平川さんにもこんな話があったのかと、我々実に愉快であった。ストーブをひっくり返へした話、記念祭の余興の話、其他うれしかった話等をなされた。

次に亀井氏の御話あり後茶菓の饗応ありて閉会。其後、新学期よりの委員の改選あり。

次に新学期に於ける角帽対円帽のへボ抜きは円帽の全勝、東西対抗は東側の勝、一年生対二、三年年生は一年の勝、長髪対断髪は断髪の勝、之で本学期の最後の月次会を終了した。

二月二十四日 予科、土木専門部、水産専門部 - 第三学期試験日割発表され、寄宿舍内も静かに皆机に付くようになった。

本日二月分決算を行ふ。石炭代を三円九銭取り、月次会二回あるにかゝわらず、一人二十三円七〇銭で割合安く上れり。

二月二十六日 試験日割発表してより皆頑張る、夜に入りても話する者なく、一室に閉じこもり机に向ふ。人無きが如し。

二月二十七日 連日の暖さに雪少く、街道も早や泥道と化す。電車、自動車の泥水に逃げ走る季節となる。毎日図書館に晝夜皆勤の舎生あり、何人も最後の努力と頑張っている。

三月一日 いよ 三月には入った。春だ。

四日からの試験さへ済めば悠々と春を楽しめるのだ。勉強はいよ 猛烈になる。

本日午後、卒業生の記念写真を武林に取りに行く。宮部舎長を始め、多数先輩諸君も来られたり。

三月三日 昨日より曇天で、時々雪がちらちら降る。寒さが又もり返して来た。最後の五分間、一同室で机について離れず、普段かくの如きなれば皆特待生ならんと話し合へり。雛祭なれど御馳走してくれる者もなしとこぼす者あり。

三月四日 予科試験第一日、皆相当の成績らしく、微笑し多く話さず。大部分は後四日と喜び居るに、一年、工農はまだ六日、喜怒様々なり。試験といへども、流石に大寄宿舍舎生、食後は音楽、平生よりも響き渡る。

三月五日 予科試験第二日目、土木専門部も始る。木村君孤軍奮戦。朝より終日猛烈に雪降る。試験中といへども悠々たるもの、大島、桜林、清水、安田、金森、大塚の諸君スキーをやる。

三月七日 太陽うららかに輝く。前二日降り積った雪美しく反射す。近所の子供達多勢でスキーをやっている。

大多数は明日一日で終了。臨教も試験始り金森君一人で頑張る。静かに机に向ひ勉強していると舎中人無きが如く静まれる。

後一日だ、頑張れ！！

三月八日 予科一年農工を除き試験終了す。

開放された愉快さは実にたとへようもなし。

夜十時の急行で畑君帰省さる。

三月九日 朝粉雪降る。川原、桜林両君藻岩方面へスキーに行かる。半数は自由の身、半数は試験の一日に尚縛らる。皆帰省の準備で舎内賑かなり。夜八時の鈍行で樋口、吉川両君の帰省あり。平生より犬猿の間柄とて汽車中つかみ合いせぬようと注意する冗談者あり。

三月十日 朝広瀬君帰省さる。夜の急行で石君も又帰省す。

三月十一日 朝、川原君旭川の乗馬の合宿に赴かる。同じく桜林、大島、清水君の帰省あり。

三月十二日 本間君帰省さる（晝）

夕方懐しき雨の音を聞きつゝ、平川君御自慢の御手製料理に舌鼓を打つ。さすがに斯道の大家の料理、少数の残留舎生のみにて食するのが惜しい様な気がした。

三月十四日 寺岡君の帰省あり（朝）、夜の急行にて金森君東京に出発さる。

午後、平川副舎長、今度目出度く学校卒業の為、六年間も住み慣れた我が舎を退舎さ

る。

三月十六日 午前七時二十分の準急にて平川前副舎長退札さる。

三月十七日 土井新副舎長、特別室に移る。

三月十八日 木村君退舎さる。

三月十九日 朝、土井君帰省さる。遂に残留舎生は一人となった。旭川からの川原君の帰舎が待ち遠しい。

三月二十一日 夜、川原君帰舎せらる。

四月十一日 朝の急行にて石君帰舎す。

四月十二日 急行にて広瀬君帰舎す。寺岡、大岩、大島の三氏迎ひに行く。夜十時頃ヒョッコリ吉川君帰舎す。話によれば安田君も一緒に、彼は鈴木先生の所に泊るとか。

四月十三日 朝から天気がよくて連日の馬糞風も何処へやら、実に内地の春の感たっぷりなり。雪にとざされた札幌市民も喜びに充ちた顔を植物園に現す。春や春、樋口君朝の急行にて帰舎す。

四月十四日 六大学野球リーグ戦今日より始まる。夕食後、蓄音機（故坪田君記念品）購入に際し協議し、左の委員をきめて一任することにせり。（畑、広瀬、大岩、安田、桜林の五名）たゞみの修繕を行ふ。夕刊によれば本年度北大農学部畜産科を卒業せし三村義夫氏謎の家出をせしとか。彼も又広島県人にして、実に昭和五年度は彼等広島県人にとっては厄年なり。陸軍依託生なので、若し生存せば事面倒に至らん。

四月十五日 朝の急行にて大塚君帰舎す。

此頃舎内に将棋が流行し始めた。暇人には面白いゲームである。

四月十六日 天気よし。若松不二夫君（予医）入舎す。七号室にして石君と同室。但し欠食す。夜七号室にて自己紹介をなす。

土井新副舎長の副社長風〔ブリ〕なか 堂に入ったものだ。

四月十七日 今日は朝より例の馬糞風札幌市中を吹きまくり支那大陸の砂塵もかくあらんと思ひし程なりき。藤田一君入舎す、二号室にして広瀬君と同室なり。二年生の諸君各処に於て先輩ぶりを發揮す。

四月十八日 朝より春雨が降る。今迄雪のみ見せられて居た人々愉快そうに街路を歩く姿が見らる。新入生の発登校日、エルムの学園白線にて賑ふ。今暁一時頃、紋別町大火。今学期のコンビネーション及び室番号左の如し（略）。

四月十九日 微風あれども天気晴朗なりき。

中央講堂にて新入生入学式催さる。大塚君今朝の準急にて再び帰省され、五日に又来るとか。清水恒久君、夜十時頃東京より帰る。彼のこと故、余程出発の際は淋しかったことであろう。同情するに余りあり。

四月二十日（日）朝より寒中の感あり。今日などは大抵何処へも行かずに居た。矢張、天

気のせいだろう。東の方に火事があったらしい。夕方より氷雨が降る。

四月二十一日 太陽は出でども風寒くして我々内地人には経験せぬところなり。北海道は四月になっても雪が降るのだなあー。

夕食後工学部のローラーを借りに行く。帰舎後、運動部主催の慰労の御馳走にありつく。舎生諸君今日は御苦労様でした、感謝致します。

高松宮殿下、同妃殿下横浜三時出帆の鹿嶋丸にて海外旅行にご出発あらせらる。

無事御旅行を終せられんことを希望してやまぬ。

四月二十二日 今日朝より天気悪く雨さへ降り出した。東京市電及び円太郎総ヒ業を行ふ。臨時運転手に依って運転されたので故障続出す。北大理学部入学者発表さる。

舎生の大塚君、川原君見事合格す、お目出度う。植物科に女高師出身の女性入学す。

三年後には北大よりも女の理学士がでるわけ。夜の十二時頃の下りの列車に飛び込み自殺をなせる女性あり。年の頃三十前後にして人妻らしく、死体は相当ひどくやられた。

四月二十三日 テニスコートの地ならしをなす。ラインまで引いてしまったので明日は練習が出来るだろう。近所の子供達にひどくされてしまったので去年ほどには良いテニスコートにはならなかった。残念に堪へぬ。舎生よく働きしたため八時半よりしるこの御馳走があった。春期旅行(薄別行き)発表さる。近い中に巖鷲寮と野球の試合をやるとか、諸君の猛練を望む。今晚も火事ありき。

二十四日 明方の青空に響くラケットの音に目を覚ます。六時頃より畑君と桜林君修繕したばかりのコートにて盛んにやっていた。

来る二十九日に巖鷲寮と野球試合があるので若手の舎生は猛練を開始す。去年は一對〇にて我が舎の勝利に帰したのであるから今年度もその記録を持ちたいものである。

要は舎生諸君の猛練に依るのである。今日四時より中央講堂にて支那に関する活動写真ありき。

二十五日 内地は春だ春だと騒いでいるのに、我が北海道は陰鬱な天気人の心も陰気になってしまふ。今晚七時より今井記念館に於て文武会音楽部主催のレコードコンサートありき、舎生の中で聞きに行きし者多かりき。樋口君風邪を引いたとか云って今日より床につく。

二十六日 午後五時より宮部舎長の帝国士院会員におなりになったお祝を兼ね、新入生(若松君、藤田君)歓迎月次会を行ふ。

多数の先輩が御列席になる。(鈴木、亀井、中島、犬飼、山口、時田、多勢の諸先輩)。

今度の月次会より方法を変へてテーブルを囲んでやることにした。委員達が熱心にやったせいか、うまい御馳走にありつくことが出来た。因みに委員は本間、広瀬、大島、吉川、金森の五氏なりき。最後に例のストームを面白くやることの出来なかったことは残念であった。十一時無事散会す。

二十七日 今日朝より野球の猛練をなすはずであったが、昨晚月次会があったので舎生の大部分は朝寝したので出来なかった。



天気がよかったので舎生の多くは植物園に行く。

二十八日 夜、野球試合の密議をこらす。どうしても勝ちたいものである。

二十九日 天気晴朗にして天長節の佳日なりき。この日我が舎は巖鷲量と野球試合を試み、各選手の奮闘空しくして四A対三のスコアにて敗れり。然し各々の立振舞見事なりき、その労や感謝すべきなり。両チームのメンバー左の如し(略)。

川原君新角をかぶって夜の準急にて帰省す。

三十日 本日は予科の新生歓迎会ありき。

OBの大部分はすしと明治の菓子をもって会には出席せず植物園に散歩に行く。

夜三号室にて新角祝ひめいたことをする。

散会十時半頃。大塚君帰舎。

五月一日 今日より植物園開放さる。

三日 Y・W・C・Aと野球試合を試み又負けてしまった。(六A対二)

四日 天気は余りよくもなかったが円山行の電車は満員なり。桜は七分通り咲いた。

川原、安田、樋口、桜林、吉川の五人は真駒内にXを見学に行く。世には物好きもあるものだなと感心した。飯島君入舎せらる。

六日 近頃稀に見る寒さ。夜分になるに従い暖くなり、舎生の大部分は街へ進出。多分夜桜見物だろう。

七日 十時半より中央講堂に於て新角達の宣誓式あり。理学部学生がふえたせいかエルムの学園も賑やかになった。

八日 経済学の泰斗福田徳三博士逝去す。今春期の六大学リーグ戦は気乗りがしないようだ。

九日 櫻星会応援団主催の選手推載式及び壮行式を行ふ。例年により出席者が少くて、却って選手諸兄の方が多い位だ。実になげかはしい次第だ。斯くも団体的觀念が乏しいのかと思へば将来が心配だ。

十日 例年の如く春期旅行を行ふ。今年も去年と同じく薄別であった。旅行によく見る如く大いに愉快に騒いだ。今年の新入生は余りにおとなし過ぎた。人数の少いせいもあらん。豊平発二時頃、薄別には四時頃無事着く。

十一日 ひる前迄すっかりのびてしまい、漸く一時半に出発せり。汽車が電車に変わったので非常に乗り心地よく周囲の景色もなか 素的なもんだ。乗り合せた酔客大いに気焰を吐き仲々賑やかなりき。四時無事帰舎。

舎内は人も居らず、待つものはぶた汁ばかりであった。

十二日 京城帝国大学法文学部長阿部能成氏の「日本文化と西洋文化」と題する講義が今、明日にわたってあることになった。

十四日 三吉神社のお祭りのためか沢山の人出だ。但し舎生には未だお参りに行きし者ないらしい。

十五日 今日昨日以上の人出なりき、舎生の大部分は街に進出。平川好文氏より当舎に

十円の寄付ありと副舎長より発表になる。

十七日 舎生の或者は大掃除を行ふ。幸に雨も降らなかった。早慶戦あり。三対一にて慶応勝てり。寄宿舍のファン十二号室にて大騒ぎ。

十八日 札幌の年中行事とも云ふべき恵迪寮の祭は好天気恵まれて九時より始まる。航空ページントがあったにも拘はらず非常な人出であった。寮生非常に愉快そう。出来ることなら我が青年寄宿舍も記念祭には各室を解放し度いものだ。今日で大部分、大掃除を終る。

十九日 晝頃より雨が降り出し、樹木の梢には緑したる青葉が明るい感じのする光線を反射して居る。これぞ北海の天地の特有性とも云ふべきものだろう。

二十一日 今晚より文武会デー開始さる。第一日目は音楽会であった。寄宿舍より、大岩、桜林、広瀬の三氏出演す。大岩君は処女出演のせいか上った気味はあったが上出来だった。

二十二日 文武会の休みを利用して或者は手稲登山に、或者は支笏湖へ夫々旅行に出掛けた。幸にも天気良かったから彼等も愉快だったことだろう。第二日目の映画の夕は五時半より開始さる。音楽部演奏会に比して非常な入場者を見た。

二十三日 予科新人対札商の野球試合あり。

始めは予科優勢なりしが若気の至りで後半に大部分圧倒されていた。

二十四日 九時半より工学部北側の芝生の上で園遊会があった。去年よりも整然としていたせいか気持がよかった。然し生憎雨に見舞はれた、二時頃より段々天気が回復して来て遂に晴れた。北大対札鉄の野球試合が三時半より行はる。結果は不明  
飯島君旅行に出掛けた。

二十五日 文武会最終日は運動会であった。

我が青年寄宿舍生も非常に活躍して一等、二等を取りし者が四、五人あった。

坪田君の記念樹を植えるべく土井、本間、広瀬、寺岡の四氏銭函に向ふ。決算を行ふ。飯島君十時半頃帰舎す。畑君九時急行にて旅順に帰へられた。父上が大病のためなり。一日も早く快方に向はれんことを舎生一同希望して止まぬ。

二十七日 海軍記念日なり、朝より花火が上る。月次会の委員左の如し。寺岡、大岩、樋口、桜林の四氏。

実砲射撃ありて若松君十七点、藤田君二十七点獲得す。

二十八日 夕方街に散歩に出掛けたが本当に夏らしい感じがした。人は皆、軽装な様子をし、夏風そよ　吹きて街を歩く人すべて夕涼み人のように思はれた。帰舎してみれば蛙が雌欲しそうに亡国的の鳴き声を出していた。

二十九日 理学部の植物科は実験が忙しいと見えて大塚君は毎日帰宅遅くて、近頃一緒に夕食をとった事がない。

三十一日 今学期第二回の月次会を行ふ。

宮部先生始め時田、多勢の両先輩がお見えになった。宮部先生の御話は、学生時代、内

村鑑三先生と寄宿舎に居られた時のことで、内村先生は試験の一週間前に試験の準備が出来て了ひ、試験の際は出来能はざるものないと言うほどであったと。水産学に非常に造詣の深い方だそうである。そして友誼觀念の強い方であると。

十時閉会し、例のヘボヌキをやり、二年対他舎生の遊戯は断然二年側の勝利に帰せり。

六月一日 エブせみの鳴き声所々に聞かれ、夜は蚊の音耳に入り初夏の気分濃厚なり。

舎生の或者は手稲へ、或者は札幌岳へ、或者は真駒内にと夫々散歩に出掛けた。

新聞によれば畑君の御父上が三十一日に御亡くなりになった。我等舎生一同謹みて逝去を悼む。

六月二日 朝より梅雨のような天気、それでも学園内は旅行者で大変賑やかなり。

暁鳥敏氏の講演が学生ホールにあった。

六月三日 段々試験が近づいて来たせいか、外出する人が少なくなってきた。今日は大変寒くて十一月のような気候であった。然し雷はさすがに降らなかった。

六月五日 我等が兄弟本間憲一君、本年度首席にて学部に進入せしため「内村鑑三氏奨学資金」の中より金五拾円授与される旨発表になる。

六月七日 土井、廣瀬の両君島松ヘリリー狩りに。大島、清水、安田の三君早北ヘ矢張りリー狩りに夫々出掛けた。話によれば島松には未だ沢山あるとか云ふ話だ。予科対高商の定期ラグビー戦あり。接戦に接戦を重ね、遂に三対〇のスコアにて予科勝利。

八日 舎生八人も島松ヘ鈴らん狩りに行く。

熱に於て一高対三高戦、人気に於て早慶戦に似たる北大予科対高商の定期野球戦は北大球場に於て開始された。この日は野球日和にして、実に観覧客は医学部伝染病室の屋根まで沢山のっていた。其の上放送までされた。試合は最初予科軍高商を圧していたが、試合の進行につれて高商段々勢いが出てきた。が然し彼等の奮闘空しく六対五のスコアにて予科軍辛勝せり。この試合を公平な眼にて評するならば予科軍は勝ちに乗じてだけ気味であった。又高商は余りにエラーが多かったようだ。応援団例の如く市内をねり歩く。

九日 本日は授業はなかった。平川好文氏、寄宿舎を訪問された。

十日 多勢、中島の両先輩テニスをおやりになって行った。

十一日 藤田君腹痛で病床につかる。浅間山大噴火。加藤軍令部長辞職す。

十三日 土井君休養のため十五日帰舎の予定で何処かへ行かれた。

十四日 文武会音楽部春季演奏会が中央講堂にてあった。又ダッチャー博士の講演が十時半からあった。

十五日 札幌神社の御祭典。山車は緊縮内閣のせいか今年度は四台しか出なかった。例年の如く創成河畔は人の波。

十六日 十時半よりダッチャー博士の連続講演ありき。通訳者高杉教授感激して涙までこぼして通訳せり。劇的シーンか。各クラス共午後の授業は自由研究の名目で休講。

十七日 試験も間近に迫って舎生の頑張りはものすごい。

十八日 未だ試験発表にならず気がもめるわい。

二十日 故坪田君記念のレコードを購入せり。

二十一日 今学期最後の月次会を行ふ。宮部先生と亀井先輩御出席なされた。又晚餐会には珍客平川さんを招待せり。最後にへボ抜きをやり、農工医理の各科リーグ戦は理、農、医、工の準にて理学部組全勝せり。

第二学期委員選挙の結果左の如し。

食事部大岩、安田 会計広瀬、文芸部金森

運動部飯島、衛生部若松

二十二日 東北対北大の陸上競技は本学の勝ち

舎生の某氏は二時半頃まで起きて勉強していた。

二十六日 今日はいちごの相場が下がったと見えて三組に分れて食っていた。集合するのによいが周囲の事情を考慮して静かにして貰いたいものだ、皆の為に。

二十七日 入梅の季節でもないのに晴れたり降ったり。或者是余裕を見せて活動写真を見に行く。

二十八日 今学期最後の授業であった。愈々試験準備は極頂点に達せんとす。保険に注意して最善の努力を望む。

二十九日 吉川君余裕を見せて朝、石狩の方へ旅行に行く。然し試験が心配と見えて、十二時半帰舎せり。土井君は平岸のいちご園に、川原、飯島の両君は三角山の方へ植物採集に出掛けた。本間君も好天気誘惑されて張碓海岸に散歩に行かれた。ただ後に残るは予科ボーイ。

七月一日 水産専門部試験開始す。

二日 予科、臨教試験開始す。今年は勉強したと見えてコンデーと云ひつゝ帰ってきた者はなかった。理学部(物)今日より夏季休業。

三日 二年の諸君明日物理の試験があるので皆、夜遅くまで起きていた。O氏の如きは三時頃まで頑張ったそう。

四日 札幌春季競馬始まる。

五日 桑園駅北側の踏切で自動車と汽車の衝突ありき。

大塚君 夜八時の汽車で旅行に出掛けらる。

水産専門部試験終了。来学期の組合せが発表になった。部屋抽せんは明朝行ふはず。

六日 寺岡義郎君一時十三分の汽車にて帰省せらる。競馬場行きの自動車が五条道路をひっきりなしに往復するので寄宿舎前の道路はさながら砂漠のようだ。

七日 土井君朝食のみ取りて苦小牧方面に見学旅行。飯島、川原の両君は空沼小屋に行った。予科三年、医科一年生各々試験終了。

八日 今日で大学は全部休みになったわけだ。

今年の一年生は全部強いと見えて直ちに帰省する人なし。六時半より亀屋にて留別コ

ンパをなし互に胸襟を開いた。八時半頃散会す。然し土井、川原、大塚、飯島、寺岡の五君が居なかったのは残念だった。

土井君、九時頃帰舎す。

九日 夜の汽車で飯島、清水、吉川、藤田君帰省せらる。安田君も夜の準急で山岳部の大雪山登山に参加す。日増しに帰へるので舎内はひっそり閑としている。

十日 朝、桜林、広瀬両君大雪登山に出立す。

夜の汽車にて石、樋口、金森の三君帰省さる。途中羊蹄山に登らるはず、但し金森君はこの限りにあらず。大島君は一週間の予定で夕張岳へ。

十一日 朝、大岩君帰省さる。金森君元気で帰舎さる。

十三日 朝、広瀬、桜林の両君も帰舎、曇りがちの天気でもし暑い日だ。夜金森、若松の両君帰省さる。予科生の旗色愈々悪し。

夜二号室で駄弁って十二時に至る。

十五日 朝の準急行にて畑君帰省さる。有志四人見送る。夏らしい良い天気だったので誰が言ひだしたともなく銭函へ海水浴へ行くことに一決す。早速弁当を造り出発、一日を愉快地遊ぶ。(川原君のみ不参)

市内高女の全生徒が来ていて一層享樂することが出来た。身体全体ぴりりして風呂に入る能はず。

十六日 四人にて今シーズン最後のイチゴを味ふ。寄宿舍多年の癌なりシラビット商会の看板を取りはずす。目の上のこぶを取りたる如し。昨日に劣らざる晴天。こう天気が続くと雨の顔も見たくなる。夜の急行で平川兄帰京さる。彼のため、これが最後であらんことを望む。大島君も天気で久し振りで夕張岳より帰らる。

十七日 動静なし。久し振りの慈雨まことに爽快なり。

十八日 大塚君に教へられて残留生一同三号室に於てポーカーを楽しむ。けだし休暇にあらざれば味ひ得ぬ味なり。夜の急行で大島君帰省。一同童心にかへってかぶと虫採集に夢中になる。

二十日 夕方、安田君 トムラウシ - 石狩 - 大雪登山を終へて無事帰舎。

二十一日 夜、急行にて本間君帰省。

二十二日 朝、準急にて広瀬、安田、両君帰省。

二十三日 夕、川原、桜林両君帰省。

八月三日 夜 土井君帰省せらる。

十八日 朝 土井君帰舎。

二十四日 朝 土井君再び帰省せらる。

二十九日 朝 広瀬君帰舎。

三十日 朝 石君帰舎。

三十一日 午前一時頃、本間君帰舎。豪雨のため函館本線が不通で長輪線を廻って来た

云う。夜帰舎した吉川君は幸ひ函館線が復旧したので、そのまゝ真直ぐに来ることが出来たそうだ。これで寄宿舍も大分賑やかになって来た。

九月一日 夕方、若松君及び樋口君元気で帰舎す。

二日 夜、桜林君帰舎す。休暇中大島に行ったとか。相変わらず元気なり。

七日 朝、安田君帰舎、夕方大島君長輪線を廻って帰舎。

八日 朝一泊の予定で大塚君友人とヘルベチアヒュッテ出掛けらる。夜の急行で川原君、清水君帰舎さる。

九日 夕四時五〇分頃の汽車にて金森君帰舎。

大塚君午後七時頃無事帰舎。銭函峠を経てヒュッテに一泊、翌日定山溪に下山されたとのこと。洪水に道を迷はされること数回、思ひの外難行だったらしい。

十日 朝の急行で畑君、寺岡君の両君元気にて帰舎さる。まだ学期始めなので外出連の帰り悠然たるものあり。

十一日 予科以外の連中、今日より学校なのでいつになく早朝より登校す。夜藤田君帰舎。

十二日 朝、飯島君帰舎せらる。

十三日 午後、大島君ヘルベチアヒュッテに向ふ。

十四日 日曜にして快晴なので野外採集、ピクニックに出掛ける者多し。午後より金森、桜林、寺岡の三君コートのパールを苦心の上、作り上げる。今日よりテニスボツ 始る。

十五日 大島君帰る。目的を遂げずに残念。

十六日 ピカーにつれられて旅行中だった本間君朝帰舎せらる。室替へのこと発表さる。今週中に完了のこと、又大掃除は二十一日までに各自やること発表さる。

十八日 朝の内は大変天気がよくて所謂秋空高しであったが晝頃より段々悪くなり、夕方になり遂に雨が降った。実際秋の空は○○の如く変りやすきものなり。金森氏実地研修のため忍路臨海実験所に赴く。(但し臨教生として)理学部講堂に於て仏蘭西語講義があったので舎生の数人は聴講に赴く。

十九日 大岩君を先頭に気の早い者五、六人の室換へが行はれた。小世帯の引越しも容易ならずと見えて舎内は大変な騒ぎだ。今日も夜分一寸雨が降った。

二十日 朝 金森君忍路より帰舎せらる。昨日より引き続き室換えを行ひすべて完了す。土曜なのに土がぬれていてテニス党大に無念。夜は大岩君を親玉としてMP行き賑ふ。結婚式盛んに行はる。

二十一日 日曜しかも天気晴朗、清水、桜林、吉川、樋口の諸君野幌へ行く。清水君すっかりリーダーとなる。彼の話によると又居残り連は大掃除をボツ 行ふ。畑、川原、本間君、10、11号等々、若松君同室に出られて淋しそうにも、退屈そうにも見えなかつた。

大岩、安田の両君相変わらずMPへ、帰舎時刻、11時前なること約10分なり。

二十二日 来る二十七日(土)に月次会を開く事発表さる。委員の顔ぶれ左の如し。

畑、飯島、大塚、若松、藤田

タイムスの本舎機終に落ちる。

23日 朝より雨にて対東北大との野球は延期となる。

夜月次会の相談(八号室)及び決算行はる。

初めての委員多きにもかゝらず、たちどころに完了す。一日分の食費左の如し。

八月分六拾銭、他に各負担一、〇五円なり。九月分六拾銭

又左の掲示でる。

告

来る拾一月三日(明治節)に当舎第三拾三回記念祭を催さんとす。舎生諸氏の協力一致により先輩の遺業を恥ずかしめざらんことを願ふ。委員の分担は左の如し。

委員長 土井恒治

庶務及会計係.....寄附募集、祝電等の整理

委員 大塚憲郷、畑賢二

招待及接待係.....茶菓の購入をも含む

委員 本間憲一、川原鳳策 飯島恒夫

響応係.....晩餐の準備

委員 寺岡義郎 安田一次 大島正幸

櫻林 繁 金森久利

余興及装飾係...食堂及玄関の装飾、余興

委員 広瀬角治 大岩皐一 清水恒久

石平左工門 樋口勝良 若松不二夫

藤田一 吉川萬雄 以上

十時を半分過ぎる頃より二号室にてコンパの笑ひがもれてくる。朝から降っていた雨もさすがに晴れたようで、無気味なほど静かな夜が深くなって行く。

二十四日 早朝より好天気なり。昨日の雨にぬれたグラウンドも大方水が引けている。札幌の道の早くぬれて早く乾せるのには驚かされる。この前の日曜に良い所で旅行、悪い所でサボッテ大掃除をやり残した面々、山へも行かれず、テニスも出来ないので、朝飯後早々掃除を始む。出来上りは、四号室金森、吉川の両君恐しくスピーディにでかし十時頃全く完了す。もっともインチキなぞと口惜しがる連中多し。ついで二号室、雨に会ひ龍頭蛇尾的にかたづける。九号は無難、次いで五号(寺岡、藤田)十時頃より始める。又本日は行はれた本学対東北大の野球戦は三対二で本学勝つ。

夕方三時頃舎を出た清水、桜林の両君新購入のビクターを手にして六時頃帰る。

二十六日 土井君しんがりを承って大掃除をなし、これですべて完了す。夜に至り記念祭の各委員のグルッペ、それ 第一回の相談を行ふ。又野球試合の申込続々あり、為に我舎でも土井御大を始め投手団其他練習に余念なし。

二十七日 理学部の開学式挙行せらる。午後より桑園グラウンドに野球の練習に行く。

夜は今月の月次会を開く。先づ五時、待っていた晚餐は大塚君の開会の辞により始められ、正に時代の最先端に行くような料理に舌を楽ませ、七時より再開、先輩は時田氏一人でものたりない夜であった。副舎長の話の後、皆あまり遠慮するので一人一人やる事とし、各自の休み中の思い出話に耳をかたむけ、最後に時田氏「海豹島」につき細かに説明をなされ、非常に面白いものであった。

そして若松君の「これで閉会と致します」との素的に簡単な辞で閉会、今日はヘボ抜きもやらず、休みの思い出話や、各部の相談等をして終る。

二十八日 予科と高商との定期野球戦小樽にて行はる。九時四十五分の汽車で予科の応援団小樽へ乗り込み、常に高商を圧倒し終に十五A対六の大差にて大勝す。

大島君帰らず。

二十九日 昨日の対高商戦の為予科は休み。

午後から又桑園のグラウンドにて野球の練習をなす。夕食後記念祭のハーモニカの打合せが十二号で開かる。今日で理学部の開学祝ひ済む。仏語講習に相変わらず大岩、桜林まじって理学部へ行く。大島君、朝小樽より帰舎。

三十日 国勢調査用紙を一号より順次廻して来る。ポスター其他色々調査気分を作り上げている。

十月一日 朝日紙の人口予想も誰に当るやら、今日がメ切りなのに。

二日 朝から曇りがちであったけれども、学校に行く頃より降り出し秋雨としゃれ、又冬のみぞれの様に考えられたりして、夜に入ってもぱらと屋根を時々思い出した様にたゞいたり、又ざーと降って来たりもする。その為か吉川君むねが痛むと云って早く帰って来た。又清水、石、金森の三人晝から学校へ出ないで室にとじこもっていた。夕食後、記念祭のハーモニカの練習をやる。皆思ったより上手なので、もうあと二、三回で立派なものになりそうな気もする。

理学部で行はれて居る仏語講習会に、この雨の中しかもこの暗い夜に本科マンにまじって桜林、大岩君ハーモニカの練習后あたふたと出て行く。秋の定期旅行は空沼ヒュッテと大体決定し、来る十一日行ふはず。

三日 Y M C Aとの戦球戦いよ 明日にせまる。併し簡単に先づ破ってしまふつもりではいる。昨日からの雨もはれ、手稲もその懐かしい姿を見せてくれる登山かな、登山の妙味を魅惑する札幌の秋が来ているのだ。

秋の定期旅行は変更、十八日になるらしい。

4日 Y M C Aとの野球戦を行ふ。

我軍始め土井、川原、飯島、金森の諸君は出場されず大に失望せしも次のメンバーをもって戦はんとした。即ち

P : 石、C : 大島、□ : 広セ、□ : 吉川、□大岩、S . S . : 桜林、L : 樋口、C : 寺岡、R : 若松



しかし開戦直前にて金森君を迎へ、これを□とし、大岩君を□とし、広瀬君をCとして寺岡君をベンチとして三時二十分頃プレーボールを宣せる。始め向ふの先攻にて我軍よく守り、殊に最初四球を出したが石君よく好投し終に敵をして無為に終らしむ。次に我軍攻撃、先づ桜林君よく選球したが三振。以下別紙の如き戦績を残し、残念ながら無念の戦はとじて行った。殊に最終の回の如きは我軍よく打ち、よく攻め無死満塁一人生還の如きチャンスがあったけれど、その頃より暮れ易い秋の陽は、高い巨人のポプラに影を残して手稲の影へ没し、為に試合続行不可能になって別紙の如くなったのであった。原因はミスの大きさにあったが、又一方、打撃の必要さを痛感する事が出来た。

夜に入り土井、大島君の発議にて十二号室に九時半頃より残念会を開き、漫談、爆笑数刻に及び、月やうやく雲より出て終電車の音も遠くなって行く頃散会す。

五日 希望していた日曜なのに、雨に降られてすっかり悲観、清水、吉川、桜林の三君今日こそは手稲に、その原始的自然の秋に酔はんものと前日の疲れをおして起きて見れば雨なので、せっかく作った“にぎりめし”を晝に食べていた。又めったにない事、本間君三友館へMPを見に行く。又安田、清水、桜林、金森の四君鈴木さんの所へレコードを聞きに行く。

六日 今日から文武会の軟式野球戦始まる。

又六大学リーグ戦にて法政・慶大を破り順位一位となる。其他俗舌の事件多々にていち上げるに紙面を有せず。

今夜は折からの十五夜に一夜俗舌よりはなれて藻岩山上に月見せんと夕食后一行(大島、安田、桜林、清水、吉川、若松、金森)

あわてゝ電車にて山鼻へ出発す。途中大島君、成田屋で多量のエッセンを購入しているのを見ながら行くと、彼はもうバスで先着していた。それから寮歌等を高唱しながら何とか云う登口に至り、いよ 山へ登ることゝなる。先づ清水君得意の登山靴に身ならぬ足をかためて先頭を終始つとめる。

(登り始め六時四十分)そして安田君、清水、大島君等から冬のチャーミングなスキーの話聞きながら梢の向から流れて来る細い月光のリズムに打たれながら、又時には鼻をつまゝれてもわからぬ様な所をラクネ・クリスチャニヤの出来そこないみたいに滑って見たりしながら、とに角、肩をすぎ終に一気に頂上まで頑張ってしまう。途中より札幌の夜の燈が綺麗に見え、目を魅惑的に刺激してやまなかつた。明治のチョコレートのネオンサインや岡田屋等々、暑い砂漠の旅人がオアシスに憩って、星を逆に地面の方に見ている様な気もした。又反対側を見ればバンケイ、遠くには三段山など夢の様に横たわっている。

半分、やはり薄いもやのヴェールに包まれながら静かに遠くへの眠りを続けている。彼女は今何を夢見ているのか? 豊平川の流れにも又野幌の原始林の上にも、又藻岩の山の我々の上にも光を投げかけている。

月よ! お前はピュアだ、お前はいつはりはいらない。お前は何時も醜い舌の中に最も深く、

そして又何物にもまして清い潤いを与えてくれる。月よ、お前は今、色々の所に様々な人を見ていることだろう。併し月よ、いずれの人にも我等が藻岩の山上で得る事の出来た清い幸福の潤ひを降してくれ。

我々は心に深い大自然の夜の神秘と偉大さとに打たれながら静かに八時頃頂上を後にした。その前、興の赴くまゝストーム、寮歌等を吟じながら、皆から集めた十五銭の変形した成田屋の餅屋オハギに元気を完全に回復、下山の途中二、三グループの月見の者に出会ったが、事なく又札幌の地に下り、安田君はバス、他は皆電車で十時半頃帰舎。

七日 昨日に続き晴天、馬肥ゆるの秋が来たのか？天も高い、赤とんぼもその最後の舞踊を続けている。農場のリンゴも赤く、唐なすも葉の陰から熟している。校庭も落葉が風に乗終末的気分の秋を更新させている。月も澄んで来たし、思索の秋が来ているのか。寄宿のコートも掃いても掃いても落葉が積って来る。あゝ秋が来ているのだ。夜になり居残り党何を考へたか四、五人四号室にて将棋に夢中になり、十一時を過ぎても尚大島君と川原君の対戦やまず。

八日 余暇の野外練習実施さる。又学生ホール三号室にてレコードコンサートあり（七時より）

九日 予科野外教練の翌日にて、学校は第一時限のみ、併し大方消してしまひ、午後より街、郊外、三角あたりへ出て行くもの相当あり。夕食後、音楽の練習あり。

十日 快晴、実科専門部及び臨教の野外練習あり。一号室にておそくまで余興部の相談をなす。

十三日 早朝、金森君地質研究のためカムイコタンに赴く。夜デムバリスト氏バイオリン独奏の放送あり一同十二号に集いて彼の妙音に恍惚とせるが如し。

十四日 予科の再度の野外教練実施さる。

雨上りの悪コンディション、併し快晴に恵まれたまでは良かったが五時を過ぎる頃、一同へばりながら帰舎。夕食後一号室にて余興部の練習あり、ドアの外へは珍妙な声がかもれていた。

十五日 実科専門部臨教の野外教練実施。

十六日 飯島君退舎せらる。

記念祭の歌は応募無きになり、土井君先づ曲を選定して徹夜して歌詞を書き遂ぐ。夕食後その施律を追ひ、ついで飯島君の退舎の言葉あり。

十七日 大島君三段へ出発、夜七時頃になり帰舎。吉川、清水、桜林の三君幌見より盤溪を廻り十分歡を盡していた。

十八日 早慶戦始まる。十二号にファン、ラヂオと対座せしも、残念ながら電地不足にて接戦を予想しながら、惜しくも散会のうき目を見る。秋天、正に高く、されど猛烈に繁殖した雪虫に悩まされている寄宿更に事無く平凡なり。

十九日 早慶戦、四対五にて早大敗る。

今夜デンバリストの演奏会あり、大部分の者これを聞きに行く。中でもアヴェマリアの

中に時計台の鐘が聞えたりして実に効果 100%も過言でなかった。

二十日 試験のある土井、畑、本間君猛勉、本間君の所は一時を過ぎる頃尚窓が明るかった。

二十一日 恒例にならひ大根洗ひ始まる。一人割当て五十本なり。つめたい水に手をつけて、併し食べることを思えば苦情も出まい。又決算の結果一日三十八銭のレコード的価の算出を見る。これで食事部にえばれる事が一つふえて来た。午前十一時より中央講堂にて米大使の講演あり。

二十二日 予科櫻星会の報告会あり。大根洗ひほゞ終了す。

二十五日 清水、桜林、金森の三君飯島君と共に朝から空沼へ出発。

二十六日 吉川、樋口君石狩へ出掛ける。

夜になり七時頃空沼へ行った三君元気にて帰る。欠食に非ず。

二十七日 土井君の試験、そして彼の人生に於ける最後の試験終る。先づ円山かどこかへ出掛け帰りおそし。十一時五十分(午後)より浜口、フーバー マクドナルの国際放送あり、一時頃まで十二号にてラジオに耳をかたむける。

二十九日 畑君朝の一番で室蘭方面へ実地見学に出発。

三十日 食堂の壁、上も張り替へ又ダイナミックをもって来たりして記念祭気分愈々濃く、各部猛練、緊張している。又この日教育勅語発布三十周年記念なり。十時より中央講堂にて挙式ありたり。畑君帰る。

手稲に雪あり。

三十一日 いよ 記念祭切迫、食堂、正面とも装飾なる。十時頃慰労の意味でウドンの響応あり。

十一月一日 朝から記念祭準備白熱化す。

夜の十時頃に至り突然の消電に逢い逢い面喰ふ。併し十二時頃より又点灯す。

十一月二日 記念祭第一日目、特に余興を練習的にして六時より開幕。近所の子供等も招待す。プログラム左の如し。就中、樋口君の板割の朝太郎断然軍を抜く。又清水君の女形も大受け、又尺八(石君)に酔ひ、九時半閉幕す。

十一月三日 舎の記念祭当日なり。

響応部朝から台所にとじこもり俄コックの技を振ふ。二時半頃宮部先生まづお出でになり鈴木氏等ついで来られ、亀井、時田、多勢、中島、山口の諸氏も来られる。

次の順序にて記念祭挙行。

- 一、着席
- 一、記念祭歌合唱(オルガン広瀬)
- 一、副舎長挨拶
- 一、舎生の祝辞(広瀬、本間)
- 一、先輩の祝辞(鈴木、時田)
- 一、宮部先生萬歳(土井君主唱)

一、青年寄宿舍萬歳（先生主唱）

かくて四時半頃漸く終了す。ついで定刻より遅くれて六時十五分前より晚餐を先生先輩と共にす。そして七時より余興に移る。

それより先十一号室を子供室として活動写真をなす。大入りなり。斯くプログラムの進むさま、ほゞ前日通り、

玄人はだしの余興に歎をつくされた頃、舞台姿のまゝ広瀬君の閉会の辞あり三十三年の記念祭も全く終了。来賓は五十余名に上れり。（記念祭歌、歌詞あり別紙）

四日 朝初めての雪降りあり、但し時間は三十分位のものか。学校をサボル者相当あり。余興部の連中、昨日の姿にて記念撮影をなす、就中珍妙な姿の中にも清水君、女形姿にて現れ、折からの学校帰りの女学生目をみはる。夜、安田君退舎せらる、森本さんのアパートなり、来春又入舎せられるとか。

昨日あまった明治の菓子余興部受け一号にて六時よりコンパを開く。

五日 朝起きて真白なのに驚く。校庭にすでにスキーのシュプールあり、気の早いのに再び驚かざるを得なかった。三角山も所々白くなっている。もっとも地面の雪は九時近く、既に消えていた。

六日 午後九時半より教練の査閲あり、査閲官は例年通り小倉小将なり。

七日 本科の査閲あり。六時より竹の家にて記念祭慰労の意味で支那料理の晚餐あり。ストーブ着く。

九日 寄宿で編物熱盛んなり。今日も特別室で講習会を開く。

十一日 大岩君昨日より学校を休む。何か発心したらし。

十三日 気温下り風雪となる。併し晝過ぎてやむ。

十四日 首相、東京駅頭にて狙撃を受く。直に手術、生命に別状ないらし。夜更けて雪降りとなり、十時頃早や地上は真白くなっている。カーテンを取り替へる。

十六日 朝から曇りがちな空は午後より降雪となる。二時頃までに三寸。三時頃になり安田君飛込んで来て、先づ大島君を落城させて他二、三人と前のゲレンデにてスキーを始む、今シーズンの皮切りなり。これに続いて夜の十一時過ぎまで代りに出掛けていた中で、珍妙なシーンは土井君先づ見本的なタイプでころぶ、次にテレマークでころび全く彼の悪日なり。樋口君と石君の腰付きは、けだしユーモアだ。大島君は五、六日前よりスキーに夢中。手入れをしたり、廊下をストックにて滑走（但しスリッパのまゝ）したり等々、彼之満足そうな顔は永久保存の価値充分にありたり

十七日 午後から今日も雪降り、併しスキーはあまりやらず。

十八日 朝二、三人スキーをやり、午後から大島君トップを切り安田君と藻岩へ行く。三回転がったとか。

十九日 午後六時半より今行き年間に於て

ポリドール十二月新譜披露演奏会あり、カルメン組曲があったので大塚、大岩、桜林、広瀬、金森の諸君聞きに行く。

二十日 気温上り夜から雨になり、三日かゝってやっと積った雪も一夜にて溶けてしまふ。

二十一日 文武会の演奏会もいよ 近づいたので猛練中、今日も最後の練習に広瀬、大岩、桜林君出て行く。あたゝかい夜なり。

二十二日 永井肇造君(予農一)入舎せらる。五号室にて十時頃より集ひ自己紹介をなす。文武会の音楽部秋季演奏会、公会堂にて開かる。定刻前すでに満員の盛況。当舎より大岩(テンパニー)桜林(バイオリン)広瀬(ギター)清水(マンドリン)の諸君出演さる。

二十三日 決算を行ふ。一日五十二銭、一人二十四円を越ゆ。朝一寸寒くなってみたりしていた気温も午後より上り小春日和を思い出さず。大岩、桜林、大島の三君亀屋でコンパ(?)を開く。

二十五日 寒くと云って、あたゝかくもない日が続いている。道の雪も跡なく消え、ただ道だけが猛烈なのに閉口、安田君夕食後訪ね来り十号室でしばし駄弁って時を過した。

二十六日 今日から丸井にてスキー展あり。

パラダイスのヒッテンブッパあり桜林君其他の名前が出ていたとか。土井君超特急に乗るとか近頃刑期のよい所を聞かせている。

二十八日 土井君朝一番で超特急の試乗に行く。總長改選、南博士に決定。

二十九日 今学期最終の、そして永井君歓迎を兼ねて月次会を開く。

料理は肉なべ、七時より会を開く。

宮部先生始め亀井、時田の諸氏来られる。

土井君の開会の辞に次いで永井君の感想あり、ついで又土井君出て超特急の乗り心地を披露す。次に寺岡、大塚、広瀬、金森、清水の諸君の話あり、時田さんの海ひょう島の多くの写真を見せていただきながら茶菓に入り十時半に閉会、次いで来学期の選挙あり別紙の如し(略)

十時七分これも終り、吉例により歓迎へボ抜きをやり、東側3-2にて西側を破る。

そして本間君の提案になる目かくし頭叩きにうつる。併し大島、藤田君の模範試合?だけにて終る。

三十日 十一月もいよ 終りになった。思い出したように夜になってちら 雪も降っている。

公会堂にてスキーの映画あり、又安田君来る。殆んど最後の日曜なので町へ出掛けるもの多し。十一時になる頃はや一面真白になって外燈の下が白くかすんで見える。

## 昭和五年

十二月一日 新しい気分で第一頁より始める。

昨夜来降った雪は正午頃までには約一尺近くとなり、舎のスロープはスキーヤーの活動盛んなり。桜林君は午後より藻岩山へ、広瀬、石君の二人は三角山の方へ出掛ける。降

雪の為、市電方々不通になり夜の八時頃までは桑園線は単線運転でノロノロ歩いていた。

又、銭函で土砂がくずれ汽車二時間ばかり延着す。

十二月二日 降ったり晴れたりし結果昨日より一尺五寸位に積む。スキー相変わらず盛ん、十一時を過ぎてから転びに行く熱心さなり、これ又賞すべし。

十二月三日 昨夜の雪少し積んでおり、スキー狂を喜ばず。その衝動やみ難く清水君、大塚君円山附近へ出張す。市電相変わらず朝は不通なるも九時頃やっと通ず。試験気分濃く、ノートの音を耳にしながら十二時の報らせを聞く。

十二月四日 朝から雪降らず、されど寒風相当に強し。前に忘れしも、二日より舎内で切手及び葉書の公德販売を行う事とせり、十二号室にそなえつける。前のスロープはもう子供が来始め、インチキクリスチャニアに特意気なり。

十二月五日 試験日割いよ 発表。各自おもむろに緊張の色が漲っている。併し試験の為の勉強に非ず、むしろ試験に際し悠々の気こそ保持したいものである。そこをもってか、この二日間にMPに行き悠然たる態度を見せる諸君次の如し、石、永井、本間、大岩、金森、吉川、いつもリーベの悩みとホームシックの清水君この度は毎日猛勉を続行す、たのもしき限りなり。昼頃より気温上り雪とけ気味なり。相変わらず前のスロープ子供でにぎわう。

十二月六日 大島、桜林の両君土井君と共に藻岩に遊び超然たるものあり。二十日に留別コンパをなすとの掲示出る。川原君知らない間に出発して手稲へ行く。夜の九時頃帰舎。

十二月七日 日曜なれども試験の為、室に立てこもる者多し。

十二月八日 雪も降らずダンダンとけて行く気味なり。今日清水君聞きすてならぬ一言を残せり。曰く“試験がノーマンだったら皆に何かおごる”と、けだし彼のノーマンは確実なればその日を待つとする。

十二月九日 雨が降ったりして、スキーマンをジラす事多大なり。

十二月十一日 いよ 試験せまり、だんだん亡者に近くなって来る。大島君体操のオデデにコンデーを宣されたとか、土井君おそくまで帰らず、円山行きだろう。工科マンと円山との関係蓋し何かあらん？

石君MPへ行く。狸小路の三友館の隣に火事あり。

十二月十二日 大岩、金森の二君MPへ行く、安田君訪れ遅く帰る。路は雨のあとで鏡を不規則に凹凸させたように凍り歩行非常に危険なり。

十二月十四日 土井君藻岩へ出掛ける。昨日吉川君MPに行き、オサへる。

十二月十五日 今日から第二学期試験開始、各自の頑張り方たのもしきものあり。

十二月十六日 試験の帰り吉川君スソ刈りし頭を变形さす。雪降らず寒い夜が続いている。坪田君のお母さんからお手紙あり金五円送附あり。

十二月十八日 試験もあと二日、そろ 伸び出している。

十二月十九日 医(二)、農(二)の試験終了。先ず伸び、これ完全に他の面々押へられる。併し勇敢なる大島MPへ行く。

十二月二十日 今日で完全に試験終了。六時より四丁目亀屋にて留別コンパを開く。定刻より遅れ川原君、石君来り八時頃散会す。九時四十分大島、石、永井君帰省、踏切にて送る、先ず感じ出す。

十二月二十一日(日曜日) 三人の兄弟を昨日送った舎の中が何だか淋しい様な気がした。毎日晴天が続く雪が降らないので、新進のスキーヤーと戦斗準備は出来ていたのが、ベストコンディションの雪が与えられず気の毒だ。今日も又清水君吉川君樋口君の帰省準備、桜林君の山岳部合宿所準備で冬休みの気分が濃厚だった。夕方、舎生全員にて決算を行い、予想外に安かったので皆上機嫌。午後八時の準急にて清水、吉川、樋口の三君帰省さる。午後九時五十一分の汽車にて桜林君山岳部合宿に出らる。夜一号室にて広瀬君のクリスマスケーキを馳走になり十時迄話す。

十二月二十二日 月曜日

朝寝ている間に大岩君帰省さる。続いて広瀬君を午前九時四十分の汽車で踏切にて送る。寄宿舍は急に兄弟が居らなくなり淋味が一層増した。夜来より雪降り出しスキーヤー喜ぶ。午後十一時頃から土井、畑、大塚、若松、藤田、寺岡の諸君滑り各々頑張り振りを見せる。

十二月二十三日 火曜日

雪が降ったので土井、畑両君とフレッシュマンの若松、藤田の両君と自分は三角山に行く。三角山は少しブシが出ておったが、シャンツウエーの所の北向スロープは良コンディションだった。だが忽ち踏みかためられてクラストになってしまった。午前中三角山にて滑り、午後は円山に巡る。午後の太陽が輝りつけ、紫外線を浴びながら進む。新進の二人は大分へばって来て歩並みがそろはなかった。二子山の急スロープはさすがおじけづいたらしい。でも初めてにしては偉大な頑張りをもって無事帰舎することが出来た。夜、土井君今年最後の御別れのご馳走あり、十時頃まで話す。

十二月二十四日 水曜日

朝、皆んなの寝ている間に畑君帰省さる。続いて午前九時の汽車で土井君を札幌駅より桑園まで送る。川原君午後より円山に滑りに行く。大塚君も此の頃は毎日スキーで活躍して居る。夜は例の如く残留部隊にて一室に会し、冬の夜をストーブを囲んでおそくまでだべる。

十二月二十五日 木曜日

今日は大正天皇祭なので、朝国旗をたてる。本間、大塚、藤田、若松の諸君と寺岡と朝の中からトランプを遊び、伸る。川原君化学の人達と手稲に行く。午後、大塚君と寺岡、理科植物の八木澤氏と共に三角山ジルバー方面にスキーに行く。雪が降らなかったのでパン　なり、切株など出てコンディションは余り良くなかった。午後五時頃帰舎する、五分くらいの後、本間君の所に御家より「キトクスグカヘレ」の電報来り一同驚く。亀

屋にて内村会のクリスマス晩餐会出席中の本間君に知らせる。同夜九時四十七分の急行で淋しい思ひにとざされて居るであろう兄を御送りする。

十二月二十六日 金曜日

残留舎生たった五人で極めて静かな一日、寧ろ淋しいくらい、ひっそりした一日を送る。午後より若松、藤田両君と自分で円山、二子山スロープに滑りに行く時は暖かだったので、雪がスキーにつき困難だった。

二人の猛練習につられて頑張る。夜、若松君外出、外の者は皆舎にて静かな淋しいくらい、馬櫓の鈴の音に心を動かされるような冬の夜を送る。

十二月二十七日 土曜日

朝八時に起きれば、藤田君と若松君何日もトップを占める。雪は降らなかったが、大塚君、藤田君、若松君の三人円山にスキーに行く。四時五十分頃、元気で腹をへらかして帰ってくる。暮れが押しせまって来て街も大分せはしなく感ずる。

十二月二十八日 日曜日

昨夜午前三時まで一号室でトランプを遊んだので今朝は皆んな朝寝した。午後大塚君と寺岡、円山にスキーに行く。余り暖かだったし、それに今日は日曜だったので、円山はワーストコンディションだった。夕食後又昨夜の興味がつゞいて、六号室にてトランプを遊ぶ。平戸氏今夜久しぶりで来られ、氏の一年に渉る軍隊生活などを聞き、在舎時代の彼をしのび愉快的一夜を送る。

十二月二十九日 月曜日

朝来より雪降り、スキーヤーの心を揺らせた。暮になさなければならぬ多くの事を控へて、午後より雪の誘惑に負けて自分は若松君、藤田君と共に三角山ジルバースロープに滑りに行く。新進の二人には少し重荷だったが、山に対する経験の為に無理に頑張ってもらふ。昨日に比して、雪は非常に良かった。帰舎して、一週間スキー部合宿に行つて来られ、日焼けして真黒くなって元気な広瀬君を見た。三年目スキー部で腕を磨いた兄の指導を得たいものだ。続いて同夜、山岳部合宿に於て十勝嶽を征服してきた桜林君を舎に御迎える。二人の山の生活は確かに冬休みを善く意義付けされたことと思う。これで、今休暇残留舎生全部が揃った、それと東側だけとは変な現象である。

十二月三十日 火曜日

今朝は、舎にて餅つきを行ふ。残留舎生七人にて十五臼程搗く。例年の如く寄宿舍独特のお供へ餅が出来、皆んなで苦心する。

午後、大塚、川原、桜林、藤田君三角山スロープにスキーに行く。夜、例年の如く石澤氏の追悼会を一号室にて催し、個人の在りし日の一端を知り、氏の性格の偉大さに打たれる。同氏夫人より寄贈さる蜜柑を戴き、在舎生氏名を寄せ書きして送る。

十二月三十一日 水曜日

愈々昭和五年の終りをつげる日だ。さすがに凡ての物が結末をつけるべく、せはしない一日だった。寄宿舍では晩餐にそばの饗応あり満腹する。